磐城毎日

社長 大和田與兵衛
發行所 福島縣平市 15丁目12番地
株式會社 磐城毎日新聞社
編集兼印刷發行人 遠藤孝倫
電話（平）一二一〇番
定價1ヶ月50円 1部2円
【夕刊・月曜休刊】

投稿歡迎

盛況の平市立合演説會

激しい舌戰に沸く

參院選擧

參議院補選の平市における立會演説會は舊歳末もおしつまつた五日午後六時半より市公會堂で民主山下、共産折笠、社會田中自由松平の四候補の順序で激しい舌戰を展開、稍頰を紅潮させた

山下候補 上層階級を握る自由黨と勞働組織の支持を受ける社會黨との間に立つて孤軍奮斗苦しい戰をつゞけるわけはと悲壯な立場を述べればこの頃より寒風をおして續々とつめかけた聽衆は殆んと廣い公會堂を滿し其の數約一千を數え中年婦人若い女性の姿も相當見られた「私は弱き女性戰爭未亡人戰災孤兒の味方です」と春江女史が結んで降壇拍手は婦人層のお義理のみ、續いて

折笠候補 一枚看板の全面講和を引さげて」またそして『殆ど無い〳〵』をしきりに連發他黨を罵倒すれば「ウソをつけ」の彌次しきり「ロシヤはどうした」の彌次聲迄とび出す仕末、續く

田中候補 は登壇するや餘有の程を示してかゆくりコップの水をのめば、じらされた聽衆「未期の水か」と一發、この頃漸く彌次の應酬が活潑となり聽衆の後方關係者は田に陣取つた組合中候補が平衡交附金等難解要語をならべたのに對して「何の事かわからない」等々の彌次をやり返し首を振り振り力み返るこの日殿軍の

松平候補 は登壇第一聲故橋本萬右工門氏に丁重なる弔意を表すと謙虚に語れば組合關係方面からの彌次を眞向に浴び中には二、三の退場する者も出たが殆んとが動ず溫厚一筋かと見えた同候補は後半俄然熱を帶び共産主流派の應援する社會黨の本質は共産黨か社會黨かと言葉鋭く攻撃只見川發電事業以下具体的な事例をあげて政策を開陣すれば滿場の拍手の中に自由黨頑張れの聲援を浴びて降壇かくて火を吐く戰の幕は閉ぢられた

更正決定を避ける

平税務所署の課税方針

税得所業事

去る廿七、二十八の兩日縣下の各税務署の調査課長會議が郡山税務署に於て開かれ二月末日までの確定所得申告に對する對策二十五年度の營業所得税の縣下のバランス及農業所得税の標準率發表を二月十日全國一齊に行ふ件等を打合せた、本年度は特需關係の纖維業者の所得は昨年に比して多い人は三倍乃至四倍普通平均二倍程度はあるが一般の業者の所得は下つて居る現狀と見られる、なお五、六七の三日間仙台に於て東北六縣の調査課長會議が開かれ東北五十六税務署の營業所得税の平衡化について協議される、今年度は法規の改正により確定申告の期間は昨年より一月延長され二月末日までとなつた平税務署として重要な事は更正決定はなるべく行わず業者（營業所得關係）の申告を基礎にして税を決定したい方針で申告する側の忠實な態度が望ましいと要望して居る、このため曾根課長以下幹部が總出で業者側と親しく折衝し良心的な申告を行う樣指導する事とし出來る限り更正決定を避け納税者が納得の行く樣税を行う方針で進む事となつた

競輪場行き

自動車の交通止め

平市署では競輪開催中の人出を考慮して六日夕刻掲示して國道より競輪場え通ずる道路約二百五十米を緊急自動車（警察、消防）及競輪主催者側の自動車以外の自動車を晝間のみ通行を禁止し交通事故防止に努める事となつた

選擧應援者のご難

石川郡母畑村湯鄉會社員添田實さんは山下候補の應援のため來平五日夜、湯本町備中屋溫泉旅館に宿泊したが同夜選擧書類其の他風呂敷包入りの赤皮カバン計九千圓相當盗まれた

平競輪の第一日

數千の觀衆の興奮坩

七日新裝全く成つた平市競輪場における處女レースは午前十時阿武隈颪の風こそ强けれど絶好の天候に惠まれて華々しく開催、へんぽんとひるがえる競輪旗の下につめかけた觀衆一千七百（午前十一時現在）手に汗をにぎりレースが始まるや興奮の聲しきり場内につめよせた豫想屋はこゝをせんとに叫び散らす、一秒一秒毎に入場者は增え市役所前より競輪場えの通ずる路は延々と續く人の波、主催者側では入場者の增えるのはこれからで處女競輪としては現在の處成功の方です、まあ豫想の五千は下らないでしようと言つて居る、第一レースの車券賣上は四萬九千圓連勝が二百四拾圓といふ狀態である

廣澤虎造師

八日公會堂で熱演

平市火防組では資金造成のため浪曲の大家廣澤虎藏師一行五名を招ぎ八日（舊正月三日）午後五時より公會堂に渡米歸朝の口演を行う事となつた、入場料は前賣百圓、當百五十圓で前人氣盛んであるが虎藏師はハワイ及加州本土を二ヶ月間に亘つて巡業し昨年十二月下旬歸朝したもので七日挨拶のため本社を訪れ米國巡業狀況を次の如く語つた、

本社長と廣澤虎造師（右）

在米邦人の浪花節熱は非常なもので私の節廻しをレロードで覺え本物以上上手な人もあつて各地にその地名を冠した「何々虎藏」幾人も出來ていたのには驚いた滯米中晝夜二回の口演を百餘回を開いたが何れも大入り滿員でその地域の邦人は入場料二弗（邦貨七百二十圓）で一人殘らず押掛け一ヶ所で一週間位の連續口演に毎日同じ顔振れで自動車で百里もの遠方から來た人も多數あつた、

平税務署管内

財務主任會議開く

平税務署では十三日午前九時より石城地方事務所で管内の各市町村の財務主任を招いて昭和二十五年度の確定申告取扱及納税についての打合會を行ふ

綴、泉驛ホームで二婦人すらる

▲内郷町綴枝宮澤三齋藤キクノさんは七日午前九時五十分頃綴驛下りホームで現金二千八百圓入りの財布をすられ平驛で氣がつき公安室え屆出た

會津若山市外東山村石山無職小野美代子さんは泉驛ホームで七日午前七時半頃現金二千三百圓入りの財布をすられ平公安室え屆出た

第一回 祝 平競輪

期日 2月7～8～10～11日
毎日 午前11時發走小雨決行

出場選手 A級 36名 B級 54名
181名 C級 54名 女子 36名

堀江工業株式會社 專務 長谷川常吉 平市才槌小路 電五一九 五三五番

磐城土建工業株式會社 社長 强口唯七郎 平市小太郎町 電五九・二八二 一〇三四番

川徳事業部 川和德一 平市鍛冶町 電九七〇番

平飲食店組合 合組長 金成一

平會館 平市三丁目 電六二四番

福壽軒 平市田町 電二八番

コンパル 平市中央通り 電六六六番

松本樓 平市南町 電一一三番

華香樓 平市銀座通り 電七〇二番

小さなマリーの
思い出 (6)

大きな「ガラス」箱の中に緑の葉をつけた植物が植えて有りました。其の中の仕切には金魚が泳いでいます。金魚は何かを見つめています。それは一人に話せないう多くの事を知つているやうに見えます。この部屋はいつも、冬の間でも、花の匂いがして居ます。「ダンロ」には赤々と火が燃えていました。その前に腰掛けて焔の中を見つめながら、火がぱち〳〵燃えているのを聞えているのは氣持のよいものです。焔はわしのために昔の思い出を讀んでくれるわいと、名附親は言いました、小さいマリーも焔のなかにいろ〳〵の物の姿を見ることが出來ました。すぐそばの大きな本棚には、ほんどの本がたくさん並んでいました。名附親はこれらの本のうちの一冊をいつも讀んでいました。そしてそれを書物のうちの書物、と呼んでいました。それは聖書でした。其の中には全世界のまだ全人類の歴史がお話になつて書かれて有ります。天地創造の話、洪水の話、王たちの話など「世界中に起つたこと、これから起ること、すべてはこの書物の中にある」と名附親は言いました。たつた一冊の書物のなかに、限りなく多くの事がらが書いて有るのじや、ありが度い事じや、人間がお願いしなければならないすべての事がらが、主の祈りの中に僅かの言葉で言い表わされて居るのだこれは惠みの露じや、それは神樣から授かる慰めの眞珠じや、それは贈物のように子供の胸の上におかれる小さい子供達よそれを大切にしておくのだよ、大きくなつても、それをなくしてはいけないよ、そうすれば道に迷う事は決してない、それはお前の心の中を明るく照らす、そしてお前はつまずく事はないのじや、名附親の目は喜びに明るく輝きました。この目も昔若い時泣いた事が有りました。あれは、あれでよかつたのじや、と名附親は言いました、あれは試煉の時じや、あの頃は何もかも灰色に見えた、今ではわしのまはりが輝いている、人間は年をとればとるほど、不幸につけ幸福につけ、神樣がいつもわれわれと共にいます、人生は最も美しい物語である事が、はつきりとわかつてくるこのことは神樣のみがわれわれにお與え下さる事が出來るのじや、そしてこれは永遠に續くのじや、「毎日がとても樂しいわ」と小さいマリーは言いました同じこと小さい男の子も大きな男の子も言いました、お父さんもお母さんも言いました、家中の人がそう言いました、けれども誰よりも名附親がそう言いました名附親は皆のうちで一番年を取つていて、世の中のことをたくさん知つていました、お話や物語は何でも知つています、その名附親が心の奥底から、こう言いました「人生は最も美しい物語じや。」

(完)

平商工會議所議員決る
激戰の結果遂に無投票

平商工會議所議員選擧は表面無風帶の如くであつたが商店研究會等が中心となつて會議所改革を目指し七名の候補者を擧げ新舊入り亂れて投票の獲得に猛運動が展開され當初は三十票を獲得すれば當選確實と見られていたが日を追激烈になり三十名の定員に對し三十五六名が出馬するものと見られるに至つたので五十票六十票とセリ上り六日の立候補締切りまでには百票以下では落選と決定づけられたので百票以下の投票獲得者は立候補を辭退するに至り遇然にも立候補者は定員の三十名に留つたので會議所議員選擧規則によつて無投票當選と決定し七日附で其旨告示した、當選者次の通りで新議員は十六名、舊議員は十四名である

イロハ順〇印は新議員

今井　岩根
色川　光以
常磐炭礦株式會社磐城工業所代表　林田　滿
小野　榮一
大塚　駒太郎
渡邊　重三郎
柏原　秀藏
吉田　泰平
瀧口　豊
武田　金一
中野　豊須美
常磐交通自動車株式會社代表　野崎　滿藏
坂井　清之助
佐藤　源吉
常磐坑木株式會社代表　清宮　一郎
木田　茂平
綠川　佳一
諸橋　久太郎
鈴木　條三郎
鈴木　文雄
山崎　賢助
正木　昌次郎
馬目　武之助
磐城土建工業株式會社代表　强口　唯七郎
赤津　庄兵衛
阿部　政右エ門
佐々木　俊男
佐藤　直之助
佐藤　幸太郎
坂本　昌藏

陳情攻めの廣川農相
舊菊多と小名濱での動靜

小名濱町では四日午後二時廣川農林大臣の來町を機會に製氷、冷凍、冷藏工場の融資關係、漁港修築の陳情等の爲め且つビニロン工場誘致等々に關する陳情をなす機會を得た、當日水野町長、菅原議長、三代漁組合長、立花港灣對策委員長、小野工場誘致委員長、比佐町議一行は植田町役場迄出迎いとして出かけたが舊菊多地區で植田町役場樓上で農相に對し渡邊植田町長、高木錦町長、豊田町議等より供出米に就ての陳情をなしたが、農相は實行し得るものは直ちに實行に移すと答へ植田町を出發、水野町長以下一行貳台の自動車に分乘し小名濱町に案內し、漁業會の會議室に迎へた、同組合には町議、漁組理事外農協關係者出迎い定めの席につくと、水野町長から漁港に關する陳情を初めとして、三代漁組合長の製氷冷凍、藏工場建設に關して四千貳百萬圓の見返り資金融資方に就て盡力を乞う旨陳情、農協組合長、駒木根、長瀨兩議の供出米に關する陳情に對し農相は明確なる回答を與え且つビニロン工場誘致に就ては大原社長とは別懇の中だ、茲に工場建設する樣能く話をつけると述べた、後町主催の吉田屋旅館に於ける晝饗會に臨み關內代議士、箱崎地方所長、縣經濟部長、秘書二名水野町長外町議等同席して晝饗この席上でも種々歡談を交し江名町に向つた

イワシ景氣盛り返す
再び活況の小名濱

小名濱港のイワシの狀況は一時どうかと氣遣はれたが二月一日頃から再び豊漁に戻り一日平均二萬貫內外の水揚げを見せて居る漁獲高は力印酢や、藤太郎の順序で他は平均二、三千貫の水揚げを見せて居る、濱はイワシ景氣を盛り返しているが價格の面も貫當り二百五十圓から二百圓見當で餘り下落しない、これは水揚げ量が適當な爲めでいさば屋の手に依つて生のまゝ出荷され加工業者の手には未だに渡らない、この分では當分水揚げが續くものと見られ從つて價格も現在以上の大量水揚げがない限り二百圓位程度を維持するものと見られ漁業家の春が來たと喜ばれて居る

登錄事務の打合せ
地方事務所で開く

二月七日石城地方事務所では各町村の經濟係員を招き次の件について登錄事務打合會を行つた

△主食販賣業者登錄事務取扱について
△砂糖需給規則の一部改正について
△菓子製造用の砂糖配給實施要項について

優良消防團と團員
消防記念日に表彰

國家消防廳では來る三月七日の消防記念日を朴して各地方の優良消防團及團員の表彰する事になり二月十日まで各地方事務所に縣を經由して申請する事を傳達して來た、表彰對象は左の通りである

1 特別の功勞あつた人
2 二十五年以上勤續消防職員
3 過去十六年間消防器具の發明發見に功勞のあつた人

石城地方事務所
選擧の啓蒙に乘出す

石城地方事務所では十二日の參院補缺選擧を前にして從來投票成績の芳しくなかつた市町村に對して七日から十日まで現地に出張啓蒙宣傳に努める事になつた、成績不良の町村次の通り、高久村、豊間町、江名町、植田町、山田村、川部村、上遠野村、草野村、四ツ倉町、小名濱町以上十個町村

石城青年連合會
十一日評議員會開く

石城郡連合青年會では十一日午前九時より石城地方事務所に於いて會長松本一夫氏が十一日羽田發の飛行機で渡米するため三ケ月の留守期間を受持つ責任者を小泉、宮本、大谷の三氏中より選出する件について評議員會を開く、また同日石城青年會の財政問題について今後の財源其の他についても協議する

七日　晩は北西の風よい天氣です
八日　は北西の風日中一時南よりの風好い天氣が續きます
九日　もよい天氣が續きましよう海上は今晩は多少風波が殘りますが明日から穩かになりましよう

秋田杉原木
大量入荷致しました
丸一材木店
工場 禰宜町 電五五六番
自宅 五丁目 電二九〇番

埋立
專用線あり迅速に致します
多少に拘らず御相談に應じますから御用命下さい
平市十五町目
丸茂土建工業所
電話四八〇・一〇六一番

吹いても降つても
夢あれば樂し
2月の幸運100万圓
寳くじ
1枚20圓、100萬圓2等迄
殘念賞付奬金
8等まで粒揃ひ
抽せん、2月28日(水)
日本勸業銀行
平支店

渡米歸朝口演
映畫に見る浪界ホープ
廣澤虎造
長講熱演
日時 二月八日 舊正三日午後五時より
會場 平市公會堂 前賣 百圓 當日 一五〇圓
主催 平市火防組連

產科
婦人科
齊藤醫院
齋藤正雄
平市南町 電九〇二番